



②



③

- ①SG第68回ボートレースダービー優勝戦（令和3年10月31日）②プロデビュー直後に久野前市長を敬訪問。色紙に「夢現」と書く（平成17年5月30日）
③第24回日本財団会長杯争奪戦競走で常滑市出身の池田浩二選手と競い合う平本選手（令和3年8月2日）
④SG第68回ボートレースダービーでの優勝旗を持つ

き自身2度目となる年間獲得賞金が1億円を超え、賞金ランキングも2位に浮上し、12月15日から19日にかけて行われる1億円を懸けたGレースの最高峰「グランプリ」への出場をほぼ確実にしました。グランプリを前にした今の心境を、賞金ランキングの順位によって、グランプリの予選1走目の枠順が決まります。まずは11月末のSGチャレンジカップで結果を残し、賞金ランキング2位以内を維持したい。グランプリでは絶対に優勝しますと頼もしい言葉を述べます。そんな平本さんがボートレーサーを目指すきっかけは父親の言葉。「子どもの頃からボートレース好きの父に『ボートレーサーになれよ』と言われていました。高校2年生の時に小さい体が生かせる競技だと知り、活躍すれば有名になれると思い、決断しました。ボートレーサーになるためにはボートレーサー養成所に入所し、1年間の訓練を受ける必要があります。1年に2回行われる入所試験

の倍率は約40倍で狭き門。今ではトップレーサーの平本さんも2度の不合格。3度目の正直で門をくぐりました。一週間に厳しい生活を強いられ、軍隊のような日々を過ごしましたと思いを話します。1年間の訓練期間を耐え抜き、無事に養成所を卒業。平成17年に志願のプロデビューを果たすと、2年半でボートレーサーの最高階級（A1クラス）に昇格し、5年後にはSGレースに初出場。順調にトップレーサーの道を歩んでいます。夢を現実にした平本さんにレースの心得を聞くと「レース前はいいイメージだけを頭に入れて臨んでいます。苦しい時ほど、笑っていますね」と話します。グランプリ優勝者のみがかぶることができる黄金のヘルメット。平本さんの頭上で輝く瞬間が訪れることを願うばかりです。夢である賞金王のタイトルなので、やるしかない。グランプリを獲りにいきます。平本さんが夢を実現し、最高の笑顔が見られる瞬間は近い。



④

>PROFILE 昭和59年大府市生まれ。吉田小・大府南中、刈谷工業高校卒業後、ボートレーサー選手養成訓練入所試験に96期生として合格。平成17年のデビューから2年半で、最高階級（A1クラス）に昇格。ボートレース界最高クラス（SG）のレースで3度優勝する実力者。現在、年間獲得賞金ランキング2位。

ボートレースとは…公営競技スポーツの一つ。6艇のボートで着順を競う競技で、スタートラインを通過後、コースを左回りに3周する。

健康都市おおぶ
50th anniversary



▲平成28年7月1日号中面

夢現

夢現とは…

平本選手の座右の銘。高校の恩師の言葉で「目標を現実のモノにするため、無限の可能性がある限り、その夢を追い続ける」という意味が込められている。

現在、ボートレースの年間獲得賞金ランキングで2位を走るボートレーサーの平本真之さん。「SGレースの最高峰『グランプリ』に出場し、優勝すること」。広報おおぶ平成28年7月1日号で、SG第43回ボートレースオールスターで優勝した平本さんは、当時の夢をそう語りました。

『Look Back 50th 広報おおぶで振り返るあの人は今。』の特別版として、3回目のSG制覇を果たし、最高峰のレースを控えた平本さんにインタビューしました。



笑顔を買き、賞金王に、俺はなる

ボ

ートレース平和島で10月31日に行われたSG第68回ボートレースダービーで優勝した平本真之さん。今大会を「精神的にきつかったです」と振り返ります。評価の高いモーターを抽選で引き当て、予選トップ通過が見えた予選最終レースでミスを重ね最下位。全体4位で予選を通過しましたが、つかみかけていた準優勝戦の1号艇を逃しました。

ボートレースはスタート後の最初のターンが勝敗に大きく影響し、インコースの勝率が最も高く、インコースを取るのに最も有利な1号艇を獲得することは勝利への近道と言えます。この時の心境を平本さんに聞くと「でも、すぐに気持ちに切り替え、2号艇で戦う準備をしました。運が舞い込んだらいいように、無理やり笑顔も作りました」と話します。

翌日の準優勝戦では、2号艇ながら1着をもち取ると、笑顔が本気に連を呼び込み、他の準優勝戦2レースでも1号艇が敗れ、平本さんに優勝戦の1号艇が転がり込みました。こうなれば、やるしかない。優勝戦で平本さんはライバルの追撃を抑え、1着でゴール。この大会で優勝賞金39000万円を獲得し、昨年に続